

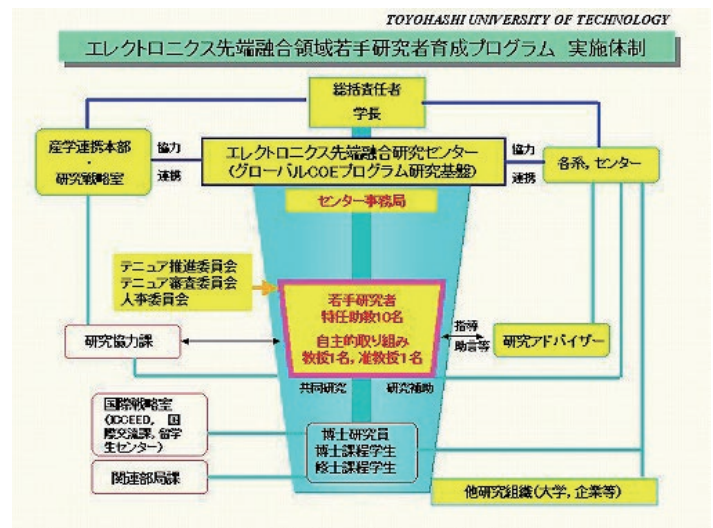
Chapter 03 エレクトロニクス先端融合領域若手研究者育成プログラム
(平成21年度科学技術振興調整費) / 副学長(研究担当) 石田 誠

文部科学省の競争的資金の一つである科学技術振興調整費の中の「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」に本年度(H21年5月)採択されたプログラムです(H21-25)。これは、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点を目指す研究期間において、テニュア・トラック制(若手研究者が任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組み。特に米国では一般的です。)に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立と活躍の機会を与える仕組みの導入を図ることプログラムです。これは平成18年度から始まり、平成20年度までに約30の大学で始められています。この事業推進のために人件費、研究費等の予算的な措置(約2億円/年)を5年間行い、その後は各大学がこの人事制度システムを継続していくことを支援するものです。本学も次期中期目標・中期計画の研究面で研究大学として特徴をだすことを決めています、その計画にそってこのプログラムを活用できればと考えています。

人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

本学では、インテリジェントセンシング技術が世界最高水準にあり、今後は、グローバルCOEプログラムで構築してきたセンシング技術を基に、先端的応用分野の先端的「知」を取り入れ、先端的知と基礎技術を複眼的に見渡せるエレクトロニクス先端融合領域で新しい価値を創造できる若手研究者を養成し、世界最高水準を目指したエレクトロニクス先端融合領域の拠点を形成します。そのためのシステム改革として、学長が主導し、先端領域で融合するエレクトロニクス先端融合研究センター(仮称)を設立(平成21年度)し、若手研究者を養成します。また若手研究者が真に独創的な研究を推進する研究環境として、従来よりも多くの研究資金、研究支援体制、研究スペースを用意し、最先端領域の融合研究に参画してもらい、幅広い見識と産業創出に繋がる優れた成果と教育者としての素養を獲得できるシステムへの改革を行います。

国際公募により5年間で10名(外国人2名、女性2名含む)の世界的に活躍できるレベルの若手研究者を任期5年の特任助教として採用し、5年後に公正な評価に基づき5名から10名を准教授として採用する予定です。若手研究者はエレクトロニクス先端融合研究センター(仮称;その後研究所へ昇格予定)が提供する十分な研究環境、体制・設備を研究に活用し、自由に独創的な挑戦的課題に取り組む機会を得ることができます。そして、本システムで構築した斬新な人材発掘・養成法と、高い流動性を含む雇用制度の有効性を十分に検討し、必要に応じて改善し、事業終了後も継続的に拡大していきます。その実施体制と内容をご紹介します。



TOYOHASHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
エレクトロニクス先端融合領域若手研究者育成プログラム 実施内容

取組内容	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目	6年度目以降
○調整費の取組	研究費配分、英語研修等先活用、研修、整備、海外研修、学会発表、論文報告等					
若手研究者の育成	エレクトロニクス先端融合研究センター(仮称)設立 → エレクトロニクス先端融合研究所(仮称)に昇格					
研究環境整備	国際公募(10名採用) ・アドバイザー発着選定 ・研究スペース確保 ・スタートアップ基金配分 ・博士課程、修士課程学生配分	業績評価	業績評価 中間評価 公開シンポジウム	業績評価	最終審査 S~10名採用 (4名教授) 公開シンポジウム	テニュア審査合格者 4名採用(3名若手、1名若手以外) そのうち 本学が選定期間を示し特任助教として採用、安定的な研究環境への積極的支援
○自主的取組 人事制度の検討	制度の検討			制度の試行		新制度への移行拡充
若手研究者 新規採用数	エレクトロニクス 先端融合領域 10名採用(調整費)					